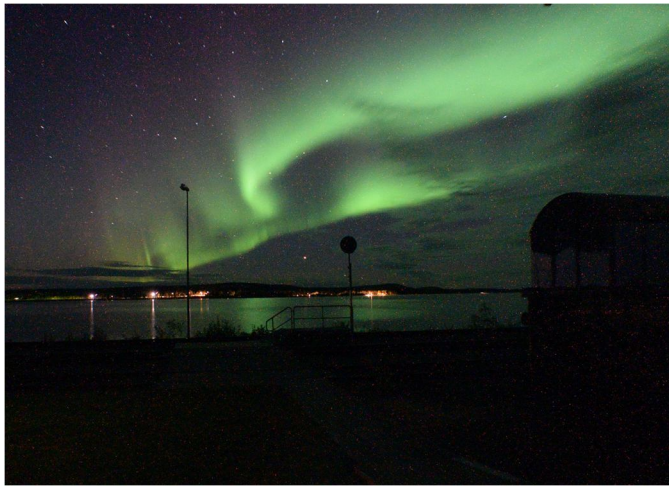


## 「秋のオーロラ (3)」

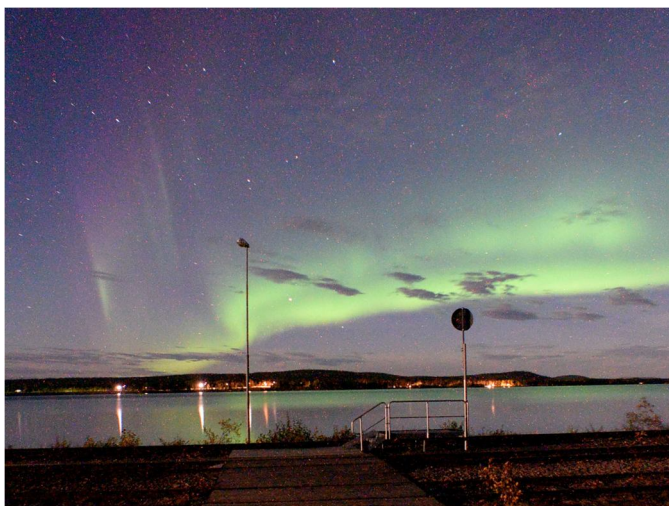
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

北極圏の南端付近では、オーロラは8月下旬から4月上旬まで観望可能である。(8月と4月に大規模なオーロラが観望できるのは稀) 汎地球的には、夏もオーロラは出現しているのだが、白夜に近い状態で、「夜間」がほとんどないので、見えないのだ。オーロラが特に美しいのは、オーロラシーズンの始まりと終わり、つまり、9月と3月である。



特に9月のオーロラは素晴らしい。スウェーデンの友人に、チヒロはなぜ一度も9月にオーロラを見に来ないのか?と何度も聞かれた。そう言われても、日本の勤め人で9月に自由に海外旅行できる人は、1%もないだろう。しかし行ってみたい。

9月のスウェーデンは秋(ルスカ)である。冬の間全面結氷する湖も、9月にはまだ凍っていない。従って、オーロラが湖面に反映して、実に素晴らしい光景を創り出すのだ。これを一度見てみたい。



秋のオーロラが素晴らしい理由は、オーロラそのものにもある。雄大なオーロラが出現するのは、現地時刻(地方太陽時)で22時~午前2時頃が多い。地上では完全に夜だが、オーロラの上端---高度400km付近では、太陽光が残っている。およそ同じ高度の、国際宇宙ステーションが光って見えるのもそのためだ。その太陽光の影響で、オーロラが紫色に染まるのだ。(これをFタイプオーロラという)



私はこの感動を子どもたちにも知ってもらいたいと思い、教室で「現在のオーロラ」を見せた。時差の関係で、スウェーデンでオーロラがよく見える頃、日本の学校では午前の授業中で、誠に都合が良い。



子どもたちは、まだ見ぬオーロラに「いつか行ってみたいなあ・・・」と、夢を持ってくれたようだ。